

臼田地区小学校施設整備に係る学校規模を 「4校を1校に統合する」方針の仮決定について

パブリックコメント実施結果

1 意見募集の概要

- (1) 意見募集期間 平成26年12月1日(月)～平成27年1月5日(月)
- (2) 公表方法 ①佐久市ホームページへの掲載
②佐久市役所市民ホール、学校教育課窓口、各支所庶務税務係窓口に閲覧用として設置
③佐久市広報紙、FMさくだいらによる周知
④臼田地区住民説明会
- (3) 意見募集方法 ①学校教育課へ持参
②郵送
③電子メール
④FAX

2 意見募集の結果

- (1) 提出された意見 23件8名
- (2) 意見の概要とそれに対する市の考え方 次のとおり

項目	番号	意見・要望事項	番号	市の考え方
学校規模 (1校に統合)	1	<p>保護者の立場からみて、今回、仮決定された4校を1校に統合する方針に賛成します。学童期に様々な個性を持った多くの友人と接することで、将来の社会生活においても様々な個性を持った他人と接することのできる術を身に付けていくことにもなると思います。広い世界で色々な人と接しながら成長して欲しいと願っています。</p> <p>地域の立場からみて、地域から小学校がなくなれば廃れるのではないかと、そんな意見や心配があることも聞いていますが、小学校を1校に統合させることを前提に、それぞれの地域の魅力をいかに引き出して廃れさせないようにするかだと思います。</p>	1	<p>佐久市教育委員会は、児童数の減少と学校施設の老朽化に直面した臼田地区小学校の施設整備の方向について、検討委員会での基本的な考え方を尊重し、子ども達のより望ましい成長に資するための学校規模として次の3点を重視し、4小学校を1校に統合します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童間、児童と教師間、児童と地域住民間、それぞれにおける多様な人間関係を通し互いに理解を深め、また切磋琢磨しながら学習し、社会性を培っていくことができる。 ○グループ別学習や学校行事など、一定規模の集団を前提とする教育活動を支障なく成立させることができる。 ○教科研究や指導の充実を図るため、同学年担当の教員間で情報交換を行うことができるよう、学年内複数学級の編制ができる。
	2	<p>臼田地区の児童数は、平成17年から平成25年の9年間で27.5%の減、そして平成31年までの14年間（乳幼児数まで）で40%減という数字は少子化という言葉の現実をまさに実感させられます。長い将来この数字がプラスに変わることを望みつつも、今は減少してしまった子どもに、いかによい環境での教育を考えてあげることかと思えます。</p> <p>長い人生を考えると、人と人とのコミュニケーションがとても重要です。人のコミュニケーションのはじめは、子どもの遊びかと思えます。成長とともに、そのコミュニティも大きくなってはなりません。一学年の数が一桁や20名以下では、人間形成にも大きな影響を及ぼすことは明らかです。また、チームプレーのスポーツすら楽しむことができません。チームプレーのスポーツでの人間関係は、人間性を育てる大きな力となります。その結果、地域云々などを考えることなく、臼田地区にある小学校4校を1校に統合することが最適かと考えます。</p>	2	
学校規模 (2校に統合)	3	<p>学校規模の方針の仮決定は、臼田地区に小学校1校ということですので、2校とするよう変更をお願いします。</p> <p>理由として、少子化への対応で先進的な取り組みとして兵庫県香美町では、小学校10校のうち8校は児童数100人ですが、統廃合せず小規模ならではの教育を行い、地域に学校を残す取り組みを行っています。</p> <p>臼田地区は10年前の合併により支所、警察署の規模が縮小され、佐久総合病院の一部移転により、就労の場が大幅に減少しています。さらに小学校の統廃合によって、学校が3校減少することは、今後の少子化に拍車をかけることとなります。</p> <p>通学範囲からみても、川東（田口小学校区・青沼小学校区）と川西（切原小学校区・臼田小学校区）の2カ所につくことによって、遠距離通学を緩和することになります。</p> <p>設置場所の1カ所をどこにするのか、意見をまとめるのに時間がかかるのではないかと心配されます。住民が合意しやすい2校を検討していただきたいと考えます。</p>	3	

項目	番号	意見・要望事項	番号	市の考え方
学校規模 (2校に統合)	4	<p>基本的には小学生は「地域」(コミュニティ)の中で地域の人達によって育てられるべきと考えます。その場合、地域とは日常生活の行動範囲です。この問題でも地域での「つながり合う関係」が薄れてきていることも問題になっています(大人も)。小学校では地域で生活する人々の文化センターといわれてきました。4校統合すれば、子ども達にとってますます「地域」は薄れていくことになりませんか。</p>	4	<p>地域の捉え方は、これまで時代の変化とともに町村合併等により枠組みが変わってきております。個々の地域の魅力を活かしつつ、臼田地区全体を一つの地域と捉えるとともに、学校を中心に地域の力を結集することにより、問題は解決できると考えます。</p>
	5	<p>「学力」とか「国際化」「コミュニケーション能力」と言われているが、これらの問題は小規模校では達成できないのだろうか。また「一本化案」の背景に過疎過密(過疎対策)、少子高齢化などの問題が大きく横たわっているのではないか。(これらは佐久市だけの問題ではないが)大人がつくりだした「地域格差」を子どもの教育にしわ寄せしてはいけないと思います。教育は「理念」を求めていくべきだからです。そして未来の「主人公」を育てるといふ崇高な使命を託されているいるからです。</p>	5	<p>小規模校では一人ひとりにきめ細やかな対応ができる利点を活かし、学校が、また一人ひとりが輝く実践が展開されております。しかし、その上で臼田地区の次代を担う子ども達には、グローバル化が進む世界を見据え、幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて判断することや、他者と切磋琢磨し変化に対応する能力を身につけていくことが大切であると考えます。</p> <p>よって将来にわたって安定した学年内複数学級の編制ができるよう、4校を1校に統合することが望ましいと考えます。</p>
	6	<p>「検討委員会の意見から」と「方針の基本的な考え方」を読んで、子どもの立場からみて、臼田地区の次代を担う子ども達への教育のあり方が述べられていますが、少人数学級(小規模校)でもこれらの項目、課題を達成していくことは可能です。全国的にみても素晴らしい(ユニークな)取り組み、(実践)をしている学校(地域)があります。そうした取り組みから学び、この「臼田地域」での小規模校での「特色ある学校づくり」を子ども達を含めて、行政と地域の人達が手を結んで本気になって取り組んでいければ、素晴らしい学校ができると思うし、それこそが新しい時代の「信濃教育」ではないかと思うし、地域の活性化にもつながっていきます。教育は「想像し創造していく」ものです。</p>	6	

項目	番号	意見・要望事項	番号	市の考え方
話し合いの進め方	7	<p>学校は、先生と親と地域が連携して成り立つものだと思います。しかし、開催される説明会に行くと地域の方の声ばかりが聞こえてきて、子どもや親がどのように考えているのかがあまり伝わってきません。私の周りには子育て世代の方で統合に興味を持っている方が少ないことも心配です。長く地域で生き、その地域を大切にされている方々の思いとともに、子どもの願い、親の願いがもっと出てくるにはどうしたらよいか考えていただきたいです。</p> <p>また、各学校が抱えている様々な問題が浮き彫りになった小学校へ我が子を通わせることは益々不安であり、不安の中で7年以上も待つのは長すぎます。1年でも早い開校を実現させるために、話し合いの時間や場所を多く設定し、検討委員の人数を増員し、具体的にどんなことを話し合いで決定していくのかを明確にさせていただいて、着工までの時間を予定の半分で行うぐらいの勢いで進めていただきたいです。親としてできることは協力しますので、1年でも早い開校を強く願っています。</p>	7	<p>検討委員は臼田地区の小中学校長、小中学校PTA代表、保育園・幼稚園の保護者代表、区長会代表、学識経験者の合わせて30名で構成されており、これまで臼田地区の子ども達のため、よりよい教育環境を整備するために、様々な観点から議論が行われてきました。</p> <p>検討委員の人数を増やすことは考えておりませんが、より多くのご意見をいただくため、市ホームページに検討委員会での様子を随時掲載するとともに、その都度、臼田地区の皆さんには全戸配布でその内容をお知らせしています。そこには、いつでもご意見をいただけるよう、事務局の電話番号やFAX、メールアドレスを掲載してありますので、いつでもお気軽にご意見をいただきたいと思えます。</p> <p>また、各種保護者会など数人の寄り合いでも結構ですので、声を掛けていただければ、いつでも説明にお伺いしご意見をいただきたいと考えております。</p>
	8	<p>現在三男はもうすぐ3歳になります。新小学校設立をどのように考え、どのような意見を持ち、どのような願いを伝えれば良いかを考えさせられています。一親の意見としてどこまで言うべきか、また言ったことをどこまで吸い上げてもらえるか、とても不安でもあります。たくさんの願いや思いがある中で、それを気軽に伝え、議論し合える場所が欲しいです。子育て世代を対象とした説明会も設定されていますが、なかなか知らない人達の集まりでは、思いや意見を言うのは難しいものです。</p> <p>また、現在次男が臼田小学校6年生に在学中です。どの地区もPTA地区評議委員の方が地区の子どもや親を取りまとめています。もっとその組織を活用し、話し合ってはどうかと思います。区長会レベルで統合の話が出たとしても、子育て世代の私達に話が伝わってこないこともあり、地区の縦の連携もなされない感じがします。この1年、地区の保護者懇談会に行っても統合のことが具体的な議題になることもなく、地区として意見を伝える機会もありませんでした。各地区ごとに思いや不安を話し合い、地区からの意見として吸い上げてもらえたら、意見も言いやすくまとめやすいのではと思えます。全臼田地区の子どもを学校に通わせる親、未就学の子どもを持つ親が統合への思いや不安を真剣に考え、それを地域の方や行政の方に理解してもらう必要があります。また、どんな意見が必要なのかを、行政側にも具体的に示してもらえれば、私達親は考え答えやすくなりますので、具体的な議論の項目を示していただきたいです。</p>	8	<p>さらに、検討委員会で一定の方向性が出された節目には、臼田地区の住民説明会や全市民を対象とした市民意見公募手続を行い、いただいたご意見等を基に議論し、方向性を決定してまいります。</p> <p>いずれにしても、臼田地区の子ども達のために、できるだけ早く開校できるよう事業を推進してまいります。</p>

項目	番号	意見・要望事項	番号	市の考え方
話し合いの 進め方	9	<p>現在、長男は高校1年生です。以前、長男に統合について聞いたことがあります。「小学校が統合すると、中学校で新しい友達ができる楽しみや、わくわくする気持ちがなくなっていくか？」と聞いてみたところ、「中学校で出会った仲間とはもっと早くから友達になっていたかった。一緒にいられるのが3年間なんて短すぎる。」という答えは、親が想像するものではありませんでした。中学校への期待感よりも、仲間と過ごす時間の方が重要であることを長男の言葉から感じました。小学生や中学生は大人が想像もしない思いや考えを持っています。</p> <p>小学校や中学校で統合について正しく説明し、もっと子ども達の思いや考えを聞かなくてはいけないと思います。これからの臼田地区の発展は、現在の小中学生の手にかかっています。この統合を子ども達が少しでも自分達の問題として考えることができれば、臼田地区のこれからの発展に繋がっていくと思います。子ども達の声を大事にしながら、どんな学校をつくるべきか、大人が考えなくてはいけないと思います。</p>	9	<p>検討委員会には各学校及び保育園・幼稚園の保護者代表が委員となっていますので、これからも子ども達の立場にたって、20年後、30年後の将来を見据えながら、臼田地区小学校の整備を推進していきたいと考えております。</p>
	10	<p>市内の小規模小学校の施設規模や教育の現状について検討がなされたのか。（仮決定の第5項の4点について）</p> <p>臼田地区以外では、12学級の小学校は4校（中佐都小、泉小、佐久城山小、東小）、7学級は2校（平根小、高瀬小）、6学級・単級は1校（岸野小）「平成24年度学校要覧」。</p> <p>つまり、旧佐久市の10校の内、7校は各学年1ないし2学級である。これらの学校については「統合」の計画は聞いていない。最近、泉小が新築されたが岸野小との統合の話もなかった。両校の児童数は515人である。単級の岸野小も屋内運動場を新築している。当分統合はないものと受け取れる。なぜ臼田地区が4校統合なのか説明が必要である。</p>	10	<p>岸野小学校の体育館は、昭和43年に建設され経年劣化していることことから、児童の安心・安全のため現在改築しています。泉小学校は、各学年内複数学級の編制ができる規模を有しており、現地改築を行いました。</p> <p>また、学校の統廃合については、国や県の指針を参考にしながら、中学校区単位で児童数及び学校施設の経年劣化等を考慮してまいります。</p>
	11	<p>第3回検討委員会でのまとめでは、3人の教師がいれば文殊の知恵で大きな力となったとあるが、1人ないし2人の学級担任では問題があるようなまとめである。体験だけでなく、3人が望ましい教育上の根拠は何か説明が必要である。</p>	11	<p>小規模校においては、学級担任が子ども達一人ひとりにきめ細やかな指導ができる利点を活かしております。</p> <p>学級担任が3人の場合は、教材や指導方法について学年内で議論を深める環境が作りやすく、また、3者が目を重ねて、それぞれの学級の子ども達を見守り、育てることで、子どもの可能性を見つけ出すチャンスが多くなると考えております。</p>
	12	<p>統合した望月小学校のPTAの人の意見は聞いたようだが、岸野小など7校の小規模校の意見も聞くべきである。</p>	12	<p>検討委員会の議論の中で、4校を1校に統合した望月小学校の保護者から統合のメリット・デメリット等について話をお聞きしたいという意見が出されたことから実施いたしました。</p>

項目	番号	意見・要望事項	番号	市の考え方
話し合いの進め方	13	<p>今、大切なことは少子化による人口減少に歯止めをかけ、佐久市の均衡ある発展により住み続けたい地域をつくることである。そのために、第1次佐久市総合計画が策定され、教育面ではそれに基づいて臼田4地区に児童館が整備されてきた。小学校の存在はそれぞれの地域コミュニティにとって大きな役割を果たしている。「統合ありき」だけの情報ではなく、地域住民に必要な情報を提供し、議論を深めるべきである。</p>	13	<p>地域の捉え方は、これまでの時代の変化とともに町村合併等により枠組みが変わってきています。地域コミュニティも臼田地区全体を一つの地域と捉え、学校を中心に地域の力を結集することにより、地域に大きな役割を果たすと検討委員会でも意見が出されました。</p> <p>今後も地域の均衡ある発展を図るため、教育環境の整備をはじめ、道路整備、産業振興、医療福祉等、市政全般にわたる議論を大事にしていきたいと思います。</p> <p>また、臼田地区小学校の整備については、「統合ありき」ではなく、丁寧に議論を進めてまいりました。</p>
学校の建設場所	14	<p>諸条件を満たす場所として、統合小学校の建設に適した面積を有する臼田小学校を利用するのが最適であり、最短の時間と費用で着工できると思います。</p> <p>理由として、万が一、事故・災害等が起きても近くに行政機関は全て整っているし、病院もあるという好条件が備わっている。また、臼田の幹線道路には歩道が完備されているので、安全に登下校ができる。</p>	14	<p>学校の建設場所については、既存の学校敷地を使うのか、あるいは新たな土地を購入するのか、まだ決定しておりません。</p> <p>今後の検討委員会で皆様のご意見をいただきながら、臼田地区の子ども達にとって望ましい教育環境を整備していくためには、どのような場所が良いのかの議論を重ね、関連する諸課題も考慮しながら方向性を決定してまいります。</p>
	15	<p>臼田協働まちづくりワークショップの皆さんが提案されたコンパクトシティ構想に呼応し、臼田小学校敷地に統合小学校を建設されることが最適だと考える。</p>	15	
	16	<p>平成20年代になり、老朽化した公共施設の跡地や合理化を進めたうえで、不要となった公共施設などの跡地の再生利用にいき詰まりが多い現実を真剣に受け止めなければなりません。経済的なことも統合するにあたり、考えることの一つです。極力、経費削減の方向で実行すべきです。4校の立地、規模、合理性、利便性などを考慮して消去法で考えると、統合校は臼田小学校に設けることが最善と思います。</p> <p>子ども達のこと全てに寄り添って考えるならば、コミュニティの大きいことです。何かあった時に多くの方が寄り添える病院、そして臼田支所、消防署、警部交番にも近く、ほかの地域にはない条件が整うことと思います。徒歩通学が可能な児童（臼田地区、下越、竜岡、上中込）も一番多く、必然的にスクールバスの使用も最小限になるのではないのでしょうか。只今の現状の中での建設は無理かと思います。校地の拡張も必要になってくるでしょう。また、校地とともに考えなくてはならないことは駐車場のスペースです。広範囲からの通学を考えますと、十分とはいかなくても、それなりのスペースを用意する必要があるのではないのでしょうか。</p>	16	

項目	番号	意見・要望事項	番号	市の考え方
学校の建設場所	17	佐久市では今のところ小中一貫教育は考えていないようですが、文科省で小中一貫教育もこれから考えていくとのこと です。 将来、中学校と小学校の交流のことを考えていくうえで、千曲川に小学校と中学校を結ぶ歩道橋をかければと思います。このことは、まちづくりワークショップでも出ていた意見の一つです。学校間だけの交流だけでなく、堤防を少し整備してウォーキングにも役立ち、健康館（仮称）としても大いに役立つのではないかと思います。	17	学校の建設場所については、既存の学校敷地を使うのか、あるいは新たな土地を購入するのか、まだ決定しておりません。 今後の検討委員会で皆さんのご意見をいただきながら、臼田地区の子ども達にとって望ましい教育環境を整備していくためには、どのような場所が良いのかの議論を重ね、関連する諸課題も考慮しながら方向性を決定してまいります。
	18	多少の校地の拡張が必要になってくることと思いますが、代替地としては佐久病院医師住宅跡地を利用することが最適かと思えます。市民の命を預かる病院とはいえ、佐久病院再構築には莫大な費用を市民の税金から出費していることを考えると、無償提供も要望してもよいのではないのでしょうか。このこと、まちづくりワークショップの一部より出ていた意見です。	18	
	19	統合後の小学校の立地については、新規に用地を取得するよりも、既存の施設を利用、拡張した方が無駄なく早く事業が進むのではないかと考えます。小海線の駅から近く、自然環境に恵まれた青沼小学校区に統合小学校を誘致できれば、青沼小学校区の活性化も期待できます。 4小学校区それぞれの魅力がある中で、臼田中学校、あいとびあ臼田の近くという意見も耳にしたこともあります。統合後は小学校から中学校まで同じ顔ぶれで過ごしていくこととなります。であれば、せめて環境だけでも違う場所に立地させれば、小学校から中学校に進学する際にも、気分も新たに臨めるのではないかと考えます。	19	
	20	子どもの通学が一番問題になります。親の意見にもありますように、「歩いて通わせたい」と願う保護者は多いのではないかと（勿論子どもも）。	20	
通学方法	21	通学路の安全性を高めるためのインフラ整備にも、気配りが必要ではないでしょうか。	21	通学路の安全性の確保は、重要な問題であると考えております。学校の建設場所が決定したところで、関係機関と連携しインフラ整備を推進してまいりたいと考えております。
学校給食	22	2校とするよう変更をお願いする学校に、給食室を設置し、自校給食としてください。	22	市全体の基本方針である共同調理方式を基本に考えております。
その他	23	今、全国的にも問題になっている「地域格差」「少子高齢化」の問題を（若いも若きも住んでいてよかったといえる）「地域の創造」を進めていくことではないかと思います（特に子育て世代の移住など）。	23	貴重なご意見として市行政に活かしてまいります。 地域の均衡ある発展を図り、全ての人達が幸せを感じられる地域社会を築くため、皆が知恵を出し合い、教育環境の整備をはじめ、道路整備、産業振興、医療福祉等、市政全般にわたる施策を充実させてまいりたいと考えております。